

都市再生整備計画 事後評価シート
流山本町周辺地区

令和7年2月

千葉県流山市

※記入にあたっての留意事項(このページは、提出の際には添付する必要はありません。)

本様式の記入にあたって、下記の点に留意してください。

1. モニタリング(一部の結果)・事後評価・フォローアップの3段階について、記入欄を色分けで区分しています。それぞれの結果を該当欄に記入してください。

段 階	内 容	時 期	記入欄の 色分け
《第一段階》モニタリング	事業期間中に、実施状況、数値目標の達成状況、効果発現の状況を確認する	交付期間中の 任意の時期	
《第二段階》事後評価	評価項目の計測（見込みの値でも可）、効果発現に関わる要因、今後のまちづくり方策等を整理する	最終年度	
《第三段階》フォローアップ	事後評価時に「見込みの値」としたものに対して、事業終了後に、確定した数値で再度整理する	原則、交付終了の翌年度	

2. 記入項目の詳細や記入例については「事後評価シート作成の手引き」を参照してください。
3. 記入欄が不足する場合には、適宜、欄(枠)を拡張するなどして記入して下さい。
4. 国への提出後、必要に応じて再提出等のために修正を行う場合は、従前の記載内容は削除せず、消し線を用いて下さい

例1)数値等の軽微な修正

【修正前】 ○○整備事業 面積 2,300㎡

【修正後】 2,800㎡

例2)文章の修正

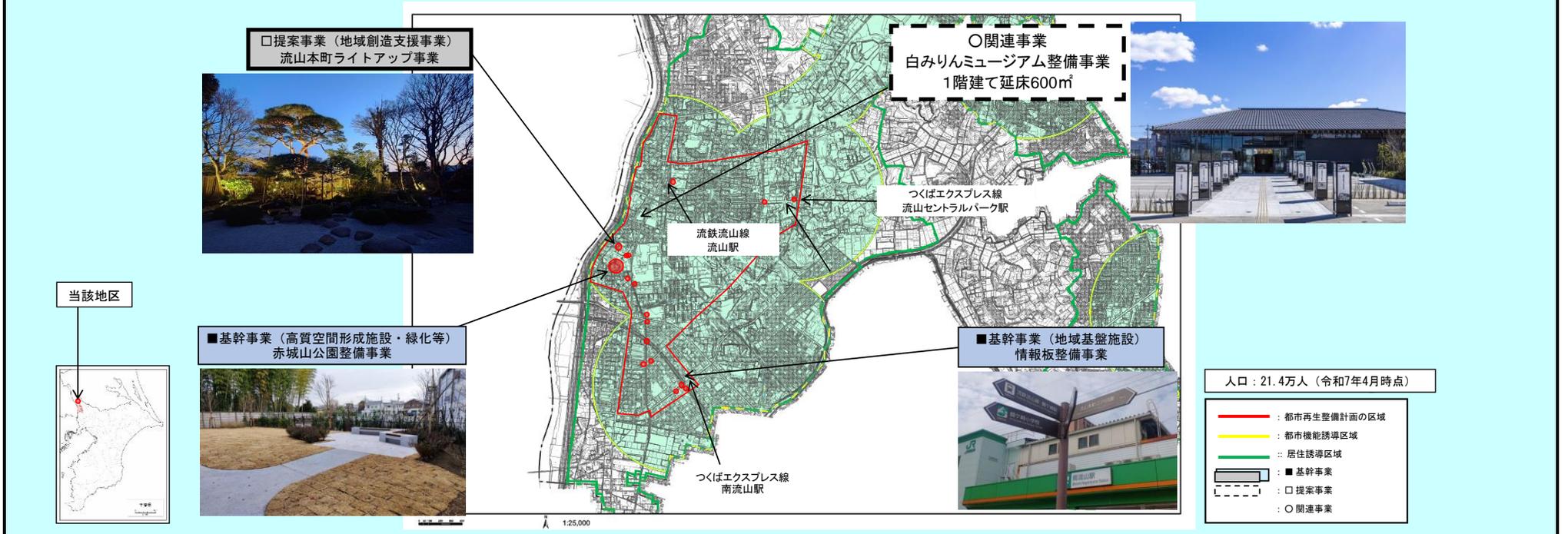
【修正前】 ……するものとし、特に、●●館のイベント等に関する情報を発信していくものとする。

【修正後】 特に、●●館のイベント等に関する最新情報をリアルタイムでHP上から提供していくものとする。

様式2-2 地区の概要

流山本町周辺地区(千葉県流山市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標:賑わいと魅力あるまちづくり 小目標①:地域資源を活用し、交流人口の拡大を図る 小目標②:来訪者の受入体制の充実	市が指定管理及び業務委託を行う観光施設の入込客数	単位:人	34,659	H30	34,750	R6	49,099	R6
	流山本町・利根運河ツーリズム推進事業補助金活用店舗の入込客数	単位:人	66,992	H30	67,150	R6	43,906	R6
	流鉄流山線流山駅の一日常乗降客数	単位:人	2,714	H30	2,750	R6	2,414	R6



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 着実に流山本町の観光地としての認知度は向上しているが、ハード面での整備が遅れている。 →当初計画にあった流山本町の道路を石畳風に整備する道路美装化事業及び引き込み線跡整備事業を先送りしたため、当初の課題のままである。 本市は、つくばエクスプレスの開業により東京からの来訪者が増えている。本地区は流山セントラルパーク駅及び南流山駅から徒歩圏内であるが、案内板が整備されていない。 →南流山駅から徒歩で訪れた方が赤城山公園を通り、そこから石畳風に整備した道路を歩いて流山本町の中心部に導く一体的な計画であったが、道路美装化事業及び引き込み線跡整備事業を先送りしたため、ハード面の課題は未解決のままである。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 案内板については一定期間経過後に情報の更新等を行い、公園については定期的な清掃等の維持管理を行う。 流山本町の核となる施設である白みりんミュージアムや流鉄を絡めたイベント開催のほか、誘致に結び付くコンテンツとのタイアップキャンペーン等を実施する。 夜間営業している飲食店もあることから、ライトアップと切り絵行灯等を活用することで、夜間の回遊性を向上させ、夜間の入込客数の増加につなげる。

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県	市町村名	流山市	地区名	流山本町周辺地区			面積	280.4ha
交付期間	令和2年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和7年度	交付対象事業費	51.0百万円	国費率	0.467		
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	基幹事業	事業名						
			【地域生活基盤施設】情報版整備事業 【高質空間形成施設】赤城山公園整備事業						
		提案事業	【地域創造支援事業】流山本町ライトアップ事業						
	当初計画 から 削除した 事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
			【高質空間形成施設】道路美装化事業 【地域生活基盤施設】引き込み線跡整備事業		当初計画時点では未定であった三郷流山新橋(当時)の完成が令和5年春見込みとなったことから、既存の流山橋と新橋に挟まれた流山本町地区の交通の流れや道路の使用形態について検討が必要となったため。		流山本町中心部の整備であるため影響はあると推測されるが、影響の程度が不明のため、目標値は据え置いた。		
		提案事業							
	新たに追加した 事業	基幹事業							
		提案事業							
交付期間 の変更	当初	令和2年度～令和6年度		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響					
	変更	-							

	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	指標2	指標3	指標4										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	市が指定管理及び業務委託を行う観光施設の入込客数	人	34,659	H30	34,750	R6	—	49,099	○	あり なし	- -	流山本町に最も近い駅は流山駅であるが、つくばエクスプレス線の流山セントラルパーク駅または南流山駅からも徒歩圏内であり、当該駅からアクセスする導線上に案内サインが整備されたことに加え、電動キックボードのポート整備により当該駅から訪れる方の利便性が高まったといえる。また、案内板が整備されたことで流山本町の観光地としての認識付けにも寄与できているものと考ええる。		
	流山本町・利根運河ツーリズム推進事業補助金活用店舗の入込客数	人	66,992	H30	67,150	R6	—	43,906	△	あり なし	○	目標達成できなかった要因は新型コロナウイルスの影響と考える。補助金活用店舗が増えたことで、まちに賑わいが生まれていると同時に、多様な事業形態や、個性のある事業を展開する店舗も増加していることにより、流山本町を回遊する魅力度が向上し、流山本町のブランディング化にも寄与できているものと考ええる。	令和8年4月	
	流鉄流山線流山駅の一日平均乗降客数	人	2,714	H30	2,750	R6	—	2,414	△	あり なし	○	目標達成できなかった要因は新型コロナウイルスの影響と考える。流山本町の玄関口である流山駅及び平和台駅前に、流山本町の観光スポット等がまとまった総合サインを整備したことにより、流山本町全体を視覚的に把握できるようになり、案内図としての利便性だけでなく、観光地としての認識付けにも寄与できているものと考ええる。	令和8年5月	
											あり なし	- -		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	流山本町・利根運河ツーリズム推進事業補助金活用店舗の数	店舗	6	H30								新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響があったものの、流山本町の観光地としての認知度が高まったこと、また、活用店舗の増加により地域の魅力度が高まり、それが新規開業に繋がるという更なる相乗効果を生んだものと考ええる。	-
	その他の数値指標2													-
	その他の数値指標3													-
4)定性的な効果発現状況														
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	官民連携による取組		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
			—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- ・国土交通省の「都市再生整備計画等 評価の手引き 令和4年度版」に則り、適切に作成されている。
- ・該当駅を利用する市民を対象としていることからその評価に一定の妥当性は認められるが、理想的には本計画の事業地・事業内容についてその利用者を対象に個別に効果検証が行われるべき。

- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影 響	事後評価時の完成状況		
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み	
道路										
公園										
河川										
下水道										
駐車場有効利 用システム										
地域生活基盤 施設	情報版整備 事業	流山セントラルパーク駅～流 山本町	7	5基	3	3基	事業費及び規模の修正	なし	●	
	情報版整備 事業	南流山駅～流山本町	8	6基	11	11基	事業費及び規模の修正	なし	●	
	引き込み線 跡整備事業	市道43005及び43006号線周 辺	16	1,350㎡	0		事業の削除	流山本町中心部の整備であるため影響はあると推測され るが、影響の程度が不明のため、目標値は据え置いた。		
高質空間形成 施設	赤城山公園 整備事業	赤城山公園	30	5,900㎡	34	2,900㎡	事業費及び規模の修正	なし	●	
高次都市施設	道路美装化 事業	市道224、41029、42008、 43004、44003、44006、46003 号線の一部)	146	1,725㎡	0		事業の削除	流山本町中心部の整備であるため影響はあると推測され るが、影響の程度が不明のため、目標値は据え置いた。		
既存建造物活 用事業										
都市再生交通 拠点整備事業										
土地区画整理 事業(都市再 生)										
住宅市街地 総合整備事業										

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影 響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		目標年度						あり	なし	
指標1	人	市が指定管理及び業務委託を行う観光施設の入込客数 (一茶双樹記念館、社のアトリエ黎明、万華鏡ギャラリー一見世蔵)からの入込客数の月次報告による。	-	-	34,659	H30	34,750	R6	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み ●	49,099	事後評価	○		
指標2	人	流山本町・利根運河ツーリズム推進事業補助金活用店舗の入込客数	-	-	66,992	H30	67,150	R6	モニタリング	-	-	モニタリング	-		○
									事後評価	確定見込み ●	43,906	事後評価	△		
指標3	人	流鉄流山線流山駅の日平均乗降客数	-	-	2,714	H30	2,750	R6	モニタリング	-	-	モニタリング	-		○
									事後評価	確定見込み ●	2,414	事後評価	△		
指標4									モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み ●		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	新型コロナウイルス感染症の影響により施設の入込客数は落ち込んだものの、現在は回復傾向にある。各事業の実施により観光地としての魅力が向上したことにより、目標値を上回る結果となった。	流山本町の核となる観光施設「流山市白みりんミュージアム」が令和6年度末にオープンし、テレビやウェブ、雑誌等で流山本町が紹介される頻度が急増している。令和7年度以降はその波及効果により、さらなる指数の改善が見込まれる。
指標2	新型コロナウイルス感染症の影響により、補助金活用店舗の多くが飲食を伴う業態であることもあって、大きく入込客数が減少した。現在は回復傾向にあるものの、コロナを機に営業形態を縮小した店舗もあり、目標値を下回る結果となった。	流山本町の核となる観光施設「流山市白みりんミュージアム」が令和6年度末にオープンし、テレビやウェブ、雑誌等で流山本町が紹介される頻度が急増している。令和7年度以降はその波及効果により、さらなる指数の改善が見込まれる。
指標3	新型コロナウイルス感染症の影響により、鉄道利用者は大きく落ち込んだ。指標1は達成していることから各事業の実施効果は出ているものと考えている。現在は回復傾向にあるものの、コロナ前の水準までは戻っておらず、目標値を下回る結果となった。	流山本町の核となる観光施設「流山市白みりんミュージアム」が令和6年度末にオープンし、テレビやウェブ、雑誌等で流山本町が紹介される頻度が急増している。令和7年度以降はその波及効果により、さらなる指数の改善が見込まれる。
指標4		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1	流山本町・利根運河ツーリ ズム推進事業補助金活用店 舗の数	店舗	年度末時点で営業している、補助金を活用し た店舗の数による(補助対象期間が終了後 の店舗を含む)。		6	H30	モニタリング			大目標である「賑わいと魅力あ るまちづくり」の達成度を図る目 安となる指標のひとつであると 考えられるため。	
							事後評価	確定 見込み	○		
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

歴史的・観光資源が点在する地域を一体的に整備し、観光スポットとしての魅力が向上した。また、地域の核となる観光施設「流山市白みりんミュージアム」がオープンし、多くのテレビやウェブ、雑誌等で流山本町が白みりん発祥の地として紹介されたことで、白みりん発祥の地としてのブランディング形成が図られた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 左記のとおり)		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 左記のとおり)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織(流山本町江戸回廊再生プロジェクト)	関係各課課長級職員 (まちづくり推進課、流山本町・利根運河ツーリズム推進課、都市計画課、道路管理課、博物館)	令和7年6月	流山本町・利根運河ツーリズム推進課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		その他の数値指標1				
指標名		市が指定管理及び業務委託を行う観光施設の入込客数		流山本町・利根運河ツーリズム推進事業補助金活用店舗の数				
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	
基幹事業	情報版整備事業・流山セントラルパーク駅～流山本町	○	流山本町に最も近い駅は流山駅であるが、つくばエクスプレス線の流山セントラルパーク駅または南流山駅からも徒歩圏内であり、当該駅からアクセスする導線上に案内サインが整備されたことにより徒歩で訪れる方の利便性が高まったといえる。また、案内板が整備されたことで流山本町の観光地としての認識付けにも寄与できているものと考え。	○	新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響があったものの、流山本町の観光地としての認知度が高まったこと、また、補助金活用店舗の増加により地域の魅力が高まり、それが新規開業に繋がるという更なる相乗効果を生んだものと考え。			
	情報版整備事業・南流山駅～流山本町	○						
	赤城山公園整備事業・赤城山公園	○						
提案事業	流山本町ライトアップ事業							
関連事業	白みりんミュージアム整備事業							

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ー：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	案内サインについては一定年度経過後に情報の更新等を行いたい。	回遊の魅力を向上させるため、店舗数だけでなく、より多様な業態の店舗が増えていくよう、補助金の案内等に努めていく。
-------	--------------------------------	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2			指標3						
指標名		流山本町・利根運河ツーリズム推進事業 補助金活用店舗の入込客数			流鉄流山線流山駅の一日平均乗降客数						
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	情報版整備事業・流山セントラルパーク駅～流山本町	○	目標達成できなかった要因は新型コロナウイルスの影響と考える。 補助金活用店舗が増えたことで、まちに賑わいが生まれていると同時に、多様な事業形態や、個性のある事業を展開する店舗も増加していることにより、流山本町を回遊する魅力度が向上し、流山本町のブランディング化にも寄与できているものと考え。		○	目標達成できなかった要因は新型コロナウイルスの影響と考える。 流山本町の玄関口である流山駅及び平和台駅前に、流山本町の観光スポット等がまとまった総合サインを整備したことにより、流山本町全体を視覚的に把握できるようになり、案内図としての利便性だけでなく、観光地としての認識付けにも寄与できているものと考え。					
	情報版整備事業・南流山駅～流山本町	○			○						
	赤城山公園整備事業・赤城山公園	○			○						
提案事業	流山本町ライトアップ事業										
関連事業	白みりんミュージアム整備事業										

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- －：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>夜間営業している飲食店もあることから、ライトアップと切り絵行灯等を活用することで、夜間の回遊性を向上させ、夜間の入込客数の増加につなげたい。</p>	<p>白みりんミュージアムを中心に、ライトアップ等の地域を盛り上げる仕掛けづくりを継続することで、来訪者ひいては流鉄利用者の増加につなげたい。</p>	
------------------	---	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織(流山本町江戸回廊再生プロジェクト)	関係各課課長級職員 (まちづくり推進課、流山本町・利根運河ツーリズム推進課、都市計画課、道路管理課、博物館)	令和7年6月	流山本町・利根運河ツーリズム推進課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
着実に流山本町の観光地としての認知度は向上しているが、ハード面での整備が遅れている。道路の美装化は約125メートルに留まっており、貴重な地域資源である町民鉄道・流鉄流山線は周辺の整備が行われていない。	計画時点では未定であった三郷流山橋の開通時期が令和5年度と決まったため、既存の流山橋と三郷流山橋に挟まれた流山本町の交通の流れや使用形態が不透明になったため、道路の美装化事業及び引き込み線事業を先送りした。	流山本町の道路を石畳風に整備する道路美装化事業及び引き込み線跡整備事業を先送りしたため、当初の課題のままである。	-
本市は、つくばエクスプレスの開業により東京からの来訪者が増えている。本地区は流山セントラルパーク駅及び南流山駅から徒歩圏内であるが、案内板が整備されていない。	両駅から流山本町までの誘導サインを設置したことで、徒歩で訪れる方の利便性が向上したと同時に、流山本町へアクセスする選択肢としての魅力を高めることができた。 また、南流山駅から歩いた際に流山本町の最初の入り口となる赤城山公園を整備したことで、散策のほか休憩地としても利用できるようになった。	南流山駅から徒歩で訪れた方が赤城山公園を通り、そこから石畳風に整備した道路を歩いて流山本町の中心部に導く一体的な計画であったが、道路美装化事業及び引き込み線跡整備事業を先送りしたため、ハード面の課題は未解決のままである。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	整備した案内板や公園が利用者にとって継続して利便性を有すること	案内板については情報が事実と乖離しないよう定期的の確認を行い、公園については適切な維持管理を行うことで快適な状態を保つ。	案内板については一定期間経過後に情報の更新等を行い、公園については定期的な清掃等の維持管理を行う。
	流山本町の来訪者数の増加傾向	ハード面の整備のほか、定期的なイベントやキャンペーンの実施等のソフト面も充実させていく。	流山本町の核となる施設である白みりんミュージアムでの定期的なイベント開催のほか、流鉄を絡めたイベントや誘客に結び付くタイアップキャンペーン等を実施する。

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	流山本町のハード面の整備が行われていない	流山本町は街歩きを主体としており、道路については石畳風に舗装し、引き込み線跡についてはイベント等が行える広場として歩道と一体的に整備する。	先送りした道路美装化事業及び引き込み線事業の実施
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
✓	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	市が指定管理及び業務委託を行う観光施設の入込客数	人	34,659	H30	34,750	R6	確定	○	49,099	○	あり	→	—	—	—
							見込み				なし				
指標2	流山本町・利根運河ツーリズム推進事業補助金活用店舗の入込客数	人	66,992	H30	67,150	R6	確定	○	43,906	△	あり	→	令和8年4月	流山本町地域における同補助金を活用した店舗からの入込客数の月次報告を確認する。	—
							見込み				なし				
指標3	流鉄流山線流山駅の一日平均乗降客数	人	2,714	H30	2,750	R6	確定	○	2,414	△	あり	→	令和8年5月	流鉄株式会社が国等へ報告する流鉄流山線流山駅の一日平均上顧客数を確認する。	—
							見込み				なし				
指標4							確定				あり	→	—	—	—
							見込み				なし				
その他の数値指標1							確定				あり	→	—	—	—
							見込み				なし				
その他の数値指標2							確定				あり	→	—	—	—
							見込み				なし				
その他の数値指標3							確定				あり	→	—	—	—
							見込み				なし				

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標・成果の達成	うまくいった点	毎年実施している調査の数値を利用することにより、数量的な値を取得することができ、事業効果を客観的に確認することができた。観光施設、店舗、鉄道の各入込客数と、異なる要素ごとに指標を設定することで、来訪者の全体的な傾向を掴むことができた。	計画作成時に、地区の特性に応じた課題と目標を明らかにすることにより、事業を集中し、適切な数値目標を設定する必要がある。
	うまくいかなかった点	目標の数値を年間としたことで、完了から一年間経過していない事業の効果を適切に反映できなかった。	
数値目標と目標・事業との整合性等	うまくいった点	事業実施により、来訪者が増加すれば、施設、店舗、鉄道駅の利用者にも同様の影響が現れると考えられるため、整合性がある目標を設定することができた。	指標の設定の際には、定義や取得方法や、数値では測れない効果の影響をよく検討し、有意な効果測定ができるよう工夫する必要がある。
	うまくいかなかった点	施設や補助金活用店舗の数が、従前値から変動したことにより、同じ条件での比較ができなかった。	
住民参加 ・情報公開 ・官民連携	うまくいった点	—	必要に応じて、事業の初期段階から、市民の意見を募り、事業内容への反映に努める。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画事業関連制度の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

--

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和7年7月21日～8月11日	令和7年7月21日～8月12日	担当課への郵便、 電子メール、FAX等	流山本町・利根運河 ツーリズム推進課
広報掲載・回覧・個別配布	市の広報に掲載	令和7年7月21日号	令和7年7月21日～8月12日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	流山本町・利根運河ツーリズム推進課窓口において供覧	令和7年7月22日～8月12日	令和7年7月22日～8月12日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	江戸川大学社会学部 教授 土屋 薫	令和8年2月4日	流山本町・利根運河ツーリズム推進課	—	流山本町活性化協議会を活用
その他の委員	他7名				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・評価数値に、入込客数や乗降客数を用い、客観的指標としていることは評価できる。 ・計画期間中に新型コロナウイルス感染症が蔓延したことにより、入込客数や乗降客数に大きな影響を受けていることは明白であるため、事業自体の効果が見えにくくなった部分はあるものと思われる。
	実施過程の評価	・核となる白みりんミュージアムの整備事業と並行して、地域全体の整備を実施してきたことは評価できる。 ・当初計画では見込めなかった事象により、道路美装化事業及び引き込み線跡整備事業を削除したことは、現実的で妥当な判断であったといえる。
	効果発現要因の整理	・いずれの指標も様々な要因が影響するものであるが、事業により観光地としての認知度が上がったとする所見は妥当な見解と思われる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けていることは明白であることから、適切な整理と考える。
	事後評価原案の公表の妥当性	・広報紙への掲載のほか、ホームページや窓口でも周知しており、公表方法は適切である。 ・様式が難解であり、見慣れない方には内容を理解しにくいものであったと推察される。より分かりやすい形で公表できるとなお良い。
	その他	なし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると認められた。

審議事項※1		委員会の意見
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・先送りとなった道路美装化事業及び引き込み線跡整備事業は、街歩きにおける重要な要素のひとつであるため、流山三郷橋の開通による交通の影響のほか、開館した白みりんミュージアムの来訪者の行動パターン等を調査し、今後も検討を続けていくことが必要であろう。 ・実施された事業についても、道路美装化事業及び引き込み線跡整備事業の実施によって、はじめてその本来の効果が表れるものと考えられる。
	フォローアップ	引き続き入込客数や乗降客数を定期的に計測していくことが重要である。いずれの指標の数値も、白みりんミュージアム開館前のものであるため、開館後の指標の数値についてどの程度変動が見られるのか注視、分析されることが望ましい。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・白みりんミュージアムは当初想定を大幅に上回る来訪者数を見せているが、同ミュージアムを目的とした来訪だけでは、先細りは見えている。道路美装化事業及び引き込み線跡整備事業の実施による回遊性の向上やイベントの実施のほか、新たな店舗の開業等によって流山本町自体の魅力度を高めていくことで同ミュージアムとの相乗効果が期待できると考える。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当であることを確認した。 ・今後も白みりんミュージアムを核としたツーリズムを推進していくためには、ハード面の整備、更新のほか、ソフト面の充実も必要であり、定期的なイベントの開催や流鉄を絡めたキャンペーン等を実施していくという方向性は評価できる。
その他	なし	

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—	—	—
—	—	—

有識者の意見	—
--------	---